

# S I D R

## 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 5 巻第 11 号

第 11 週(3月 14日 ~ 3月 20日)

発行年月日:平成17年(2005年) 3月 25日

発行:滋賀県立衛生環境センター内

滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

### 1)全数報告の感染症(1類~5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (11週)	累積報告数		平成16年報告数	
			滋賀 (11週)	全国 (11週)	滋賀	全国 <sup>(*)1</sup>
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	2	130	9	576
	腸チフス	0	0	12	2	66
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	124	21	3,640
4類感染症	E型肝炎 <sup>(*)2</sup>	0	0	8	1	34
	オウム病	0	0	14	1	39
	デング熱	0	1	7	2	45
	マラリア	0	0	16	2	73
5類感染症	アメーバ赤痢	1	1	131	8	580
	ウイルス性肝炎	0	0	74	5	299
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	18	1	53
	後天性免疫不全症候群	0	0	224	6	1,119
	ジアルジア症	0	0	11	2	85
	梅毒	0	0	107	4	516
	破傷風	0	0	11	2	100
急性脳炎 <sup>(*)2</sup>	0	0	41	1	164	

\*1:平成16年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

\*2:平成17年第9週現在の報告数です(iDWR掲載の報告数を参考にしています)。

### 2)定点把握の対象となる5類感染症

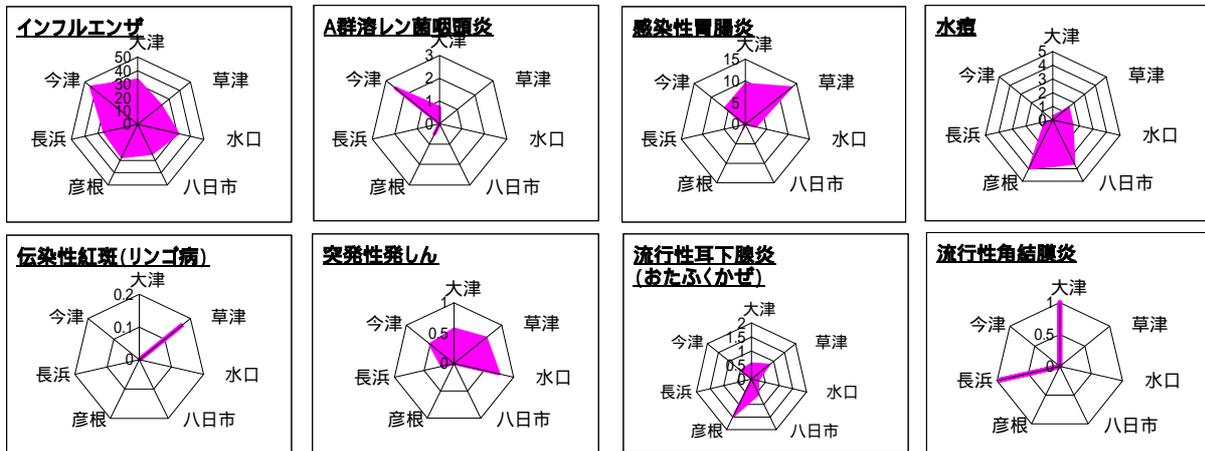
(1)疾病別・週別発生状況(第6~11週、2/7~3/20)

疾患名	定点当たり患者数 ( 前週より増加 前週と同じ 前週より減少)											
	6週		7週		8週		9週		10週		11週	
	(2/7~)	(2/14~)	(2/21~)	(2/28~)	(3/7~)	(3/14~)	7	8	9	10	11	
インフルエンザ	17.25	25.37	46.10	49.16	45.49	28.06						
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0						
咽頭結膜熱	0.06	0	0	0	0.06	0						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.64	0.45	0.82	1.00	0.58	0.36						
感染性胃腸炎	5.12	5.03	4.21	4.03	4.27	5.33						
水痘	1.82	1.39	1.42	2.09	1.39	1.64						
手足口病	0.21	0.24	0.09	0.03	0.06	0						
伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0.06	0	0	0.12	0.03						
突発性発しん	0.61	0.45	0.42	0.36	0.64	0.39						
百日咳	0	0	0	0	0	0						
風しん(三日はしか)	0	0	0.06	0	0.06	0						
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0.03	0						
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0.03	0	0	0						
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.55	0.79	1.45	0.76	0.82	0.61						
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0						
流行性角結膜炎	0.14	0.14	0.57	0.14	0.29	0.29						
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0						
無菌性髄膜炎	0.57	0	0.29	0	0	0						
マイコプラズマ肺炎	0	0.29	0.14	0.14	0.14	0						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0						
成人麻しん	0	0	0	0	0	0						

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第11週、3/14~3/20)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)							
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津
インフルエンザ	28.06	32.91	22.10	30.29	24.00	26.57	25.20	44.00
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	0	0	0	0	0	0	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.36	0.71	0	0	0	0.50	0	2.50
感染性胃腸炎	5.33	9.43	13.67	2.50	0	1.25	0.20	6.00
水痘	1.64	0.29	1.50	1.50	3.60	4.00	0.60	0
手足口病	0	0	0	0	0	0	0	0
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.03	0	0.17	0	0	0	0	0
突発性発しん	0.39	0.57	0.67	0.75	0	0	0.20	0.50
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0
麻疹(成人麻疹を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.61	0.57	0.83	0.25	0.60	1.50	0	0.50
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0.29	1.00	0	0	0	0	1.00	0
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
成人麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況：

保健所管内別の定点当たり患者数は上記のグラフのとおりです。インフルエンザの県内における発生は各保健所管内とも先週より減少していますが、引き続き非常に多い状態となっています。感染性胃腸炎は草津で、水痘は八日市および彦根で多くなっています。突発性発しんは水口でやや多くなっており、流行性耳下腺炎については彦根で先週より減少していますが、大津および草津でやや増加しています。伝染性紅斑(リンゴ病)は草津から、流行性角結膜炎は大津および長浜から報告されています。

また、第11週に増加を示した感染性胃腸炎および水痘の年齢別発生状況は下記のとおりです。

第11週(3/14~3/20)における年齢別発生状況(%)

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳~
感染性胃腸炎	2.3	5.7	17.0	13.0	11.0	13.0	6.8	9.1	5.7	3.4	3.4	5.1	1.1	3.4
水痘	3.7	1.9	18.5	14.8	9.3	16.7	16.7	14.8	0	1.9	0	1.9	0	0

- 全数報告感染症 -

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一~四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一~四類および五類感染症を把握することができます。これを全数報告の感染症といえます。

\* 感染症法: 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

- 定点当たり患者数 -

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

\* 疾患により定点数は異なります。

### 3) 今週のトピックス

#### インフルエンザの発生は減少傾向 滋賀県における全数報告感染症の概要(平成17年第1週～第11週)

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(3月7日～3月13日)の報告数よりさらに少なくなっており、特にインフルエンザの報告数はほぼ半減しています。また、感染性胃腸炎および水痘は増加していますが、その他の疾患については減少あるいは横ばいとなっています(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフを参照)。

**インフルエンザ**については、先週の定点当たり患者数45.49より大幅に減少し28.06となっていますが、県内全ての保健所管内に「感染症の流行の警報・注意報システム(注)」による**流行発生警報**が出されています。引き続き「**手洗いとうがいを十分にする**」、「**人混みを避ける**」、「**マスクを使用する**」などの**注意が必要です**。

また、2004/2005シーズンにおける全国のインフルエンザウイルスの分離報告数(H17.3.22)現在)は、AH1型(Aソ連型)113件、AH3型(A香港型)920件およびB型1,676件となっており、B型は全分離報告数の62%を占めています。

#### (注)感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム

感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム(厚生労働科学研究事業)では過去5年間の患者発生状況をもとに疾患ごとに定点当たり患者数の基準値を設定しています。

**流行発生警報**----インフルエンザの場合、定点当たり患者数が30人以上という基準値を超えた時に出されます。流行発生警報という表現により大きな流行が発生した、または発生している可能性があるという情報を提供しています。

\* 詳細については警報・注意報発生システムとは(国立感染症研究所感染症情報センター)参照  
<http://idsc.nih.gov.jp/disease/influenza/inf-ho/guide04.html>

**感染性胃腸炎**については、先週の定点当たり患者数4.27よりやや増加し5.33となっています。草津保健所管内においては、先週の定点当たり患者数9.67よりかなり増加し13.67となっています。

**水痘**については、先週の定点当たり患者数1.39よりやや増加し1.64となっていますが、八日市および彦根保健所管内において急増しています。定点当たり患者数はそれぞれ、3.60、4.00となっています。

#### 滋賀県における全数報告感染症の概要(平成17年第1～11週)

感染症類型	疾患名	報告年月日	概要		
			菌種、血清型等	推定感染地域	推定感染源(原因)・感染経路等
一類感染症	報告なし				
二類感染症	細菌性赤痢	H17.1.14	菌種:ソネ	インド	不明
		H17.2.14	菌種:ソネ	インド、タイ カンボジア	経口感染
三類感染症	報告なし				
四類感染症	デング熱	H17.2.25		インドネシア	蚊
五類感染症	アメーバ赤痢	H17.3.18		不明	不明

滋賀県において第1～11週に届出のあった全数報告感染症は4件で、細菌性赤痢2件、デング熱1件およびアメーバ赤痢1件となっています。特に、細菌性赤痢およびデング熱の推定感染地域はインド、タイ、カンボジア等の海外となっています。海外渡航時には、感染症の予防についての十分な注意が必要です。

#### 飲食物に対する注意(赤痢、コレラ、腸チフス等の予防)

水道水などのなま水(氷を含む)を飲まない、ミネラルウォーターなどのビンやカンに入った物を買う、アルコール類で細菌は死にません。

肉類や野菜類などは加熱し熱いうちに食べる。

果物類は皮をむいてすぐに食べる(カットフルーツ類は食べない)。

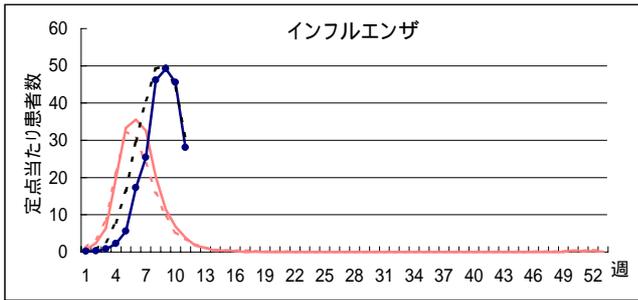
#### 昆虫に対する注意(マラリア、デング熱等の予防)

長袖の服・長ズボンの着用、防虫スプレーを持参するなどして蚊に刺されないようにする。

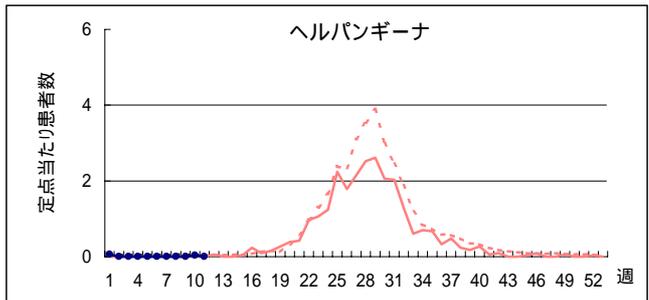
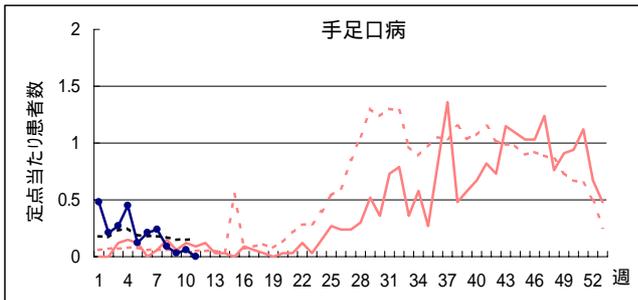
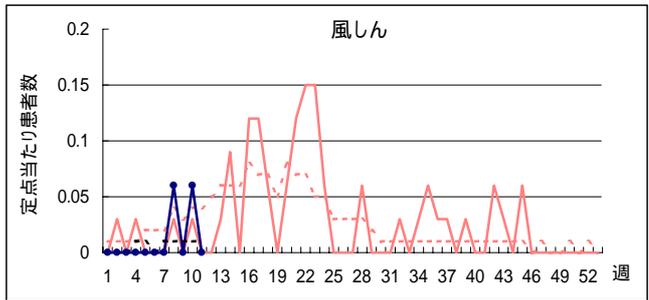
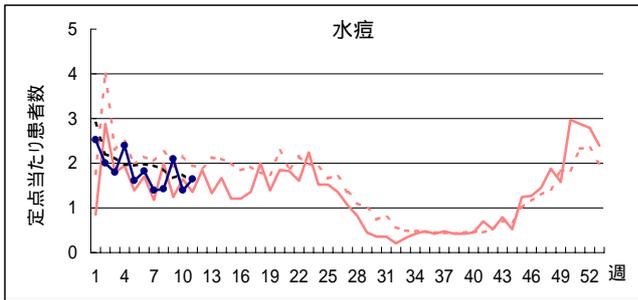
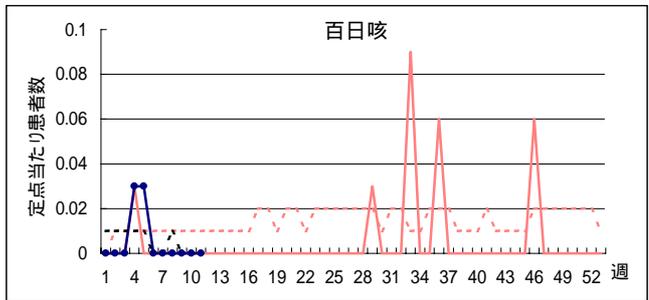
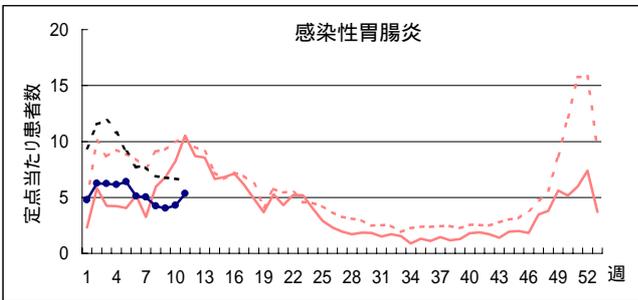
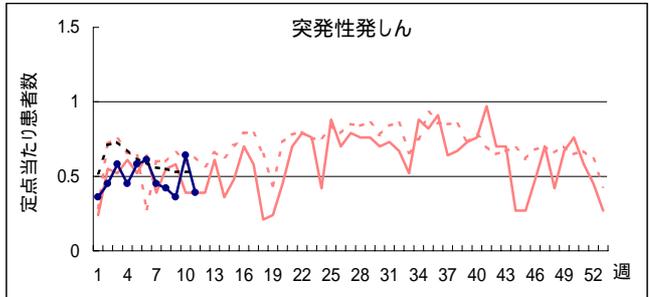
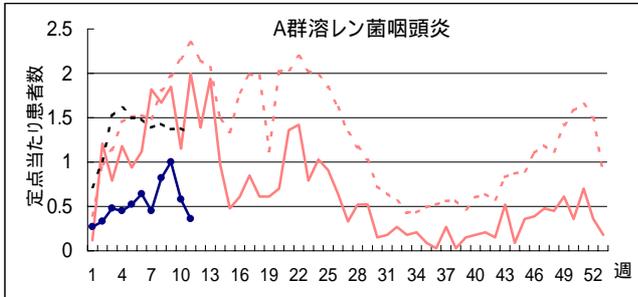
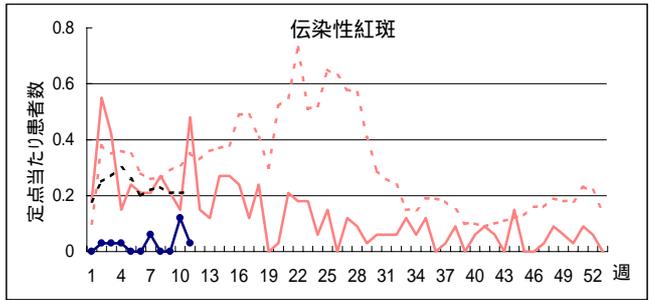
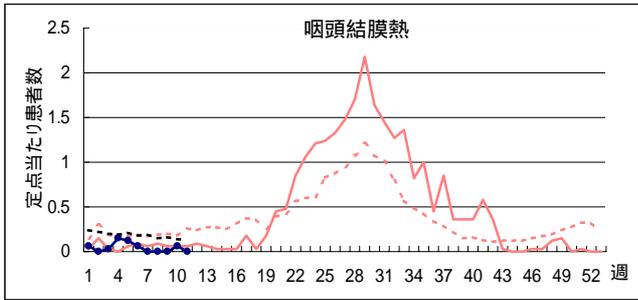
\* 海外渡航時の感染症の予防については、滋賀県感染症情報(SIDR)第5巻第10号の特集に掲載しています。

全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**  
(<http://idsc.nih.gov.jp/index-j.html>)において公表されています。

疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第11週、H17.1.3～H17.3.20)



H16 { 滋賀 ————  
       全国 ······  
 H17 { 滋賀 ●——●  
       全国 ······



# 疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第11週、H17.1.3～H17.3.20)

H16 〔 滋賀 ———— 全国 ..... 〕  
 H17 〔 滋賀 ●——● 全国 ..... 〕

